（二十九日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日 毎月一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 郵税十五錢
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢増
發行兼編輯人 [illegible]
福島縣平町四丁目十六番地
發行所 磐城新聞社
電話五六番

清冽な水に惠まるゝ
今後の湯本町民
入山の利權を讓り受けて
廿萬圓の大工事を計劃す

湯本町では上水道の設備ないため毎年渇水時には飲料水さへ得られず困難するのから今回入山炭礦が先に許可された水利權の讓渡を受けこれにより上水道を敷設する計畫が樹てられ同町と入山炭礦との間に協定成り廿七日兩者から關係書類を添付し縣へ讓渡認可の申請を提出したそれによれば同水利權の水源地は好間村大字上好間字田代地内の好間川上流から分水した大瀧江筋へ更に分水門を設けて取入れ用水し同町高坂に淨水池を設け濁船と水野谷の二字を除いた全町へ給水せんとするもので、使用水量は毎秒一個半であるが給水には一人一日當り五個宛としても人口二萬人分に向あまりある本工費總額は廿九萬六千二百三十九圓で五六の兩年度で完成せんとするものである元來入山炭礦で許可さる時は湯本町にも給水する事になつてをつたが其の後の財界不況の餘波に禍されて遂に巨費を投じて工事する事が出來なくなつたので渇水に悩む湯本町としては自立の計畫を樹て水源地につき調査した處入山炭礦の既得水利權の讓渡を受ける事が最も好都合としこの申請となつたものである

縣參慰勞宴
昨谷口の盛況

會計檢査の爲來郡したる縣參一行の慰勞宴會は昨二十八日午後六時半から平町谷口樓に於て開催したが出席者は佐竹議長、山崎與三郎氏外、岩崎縣議町會議員等四十餘名伏見町長の挨拶あり縣參の謝辭を述べそれより地元の縣參鈴木辰三郎氏一々名の正賓を紹介して宴に移り歡談湧くが如く盛會裡に八時半散會した

石城稻作况
平年の二割增

石城地方の稻作は連日九十度以上の暑さの爲め稀有の豐作見越しで平年より二割位の增收は確實と觀られ九月一日の二百十日迄には全部出穗揃ひとなるが颱風が無い限り其の反面に米價安を憂ひがあり一般持米農家は警戒してゐる

四倉繭市場
廿八日取引况

四倉繭市場二十八日の成績は最高二圓十一錢最低一圓四十八錢平均一圓七十錢總貫數千七百七貫累計五千五百四十一貫である

—（今月今日）—

△元帥刀を制定す（大正七）△韓國を併合し朝鮮と改稱す（明治四三）△日露講和條約成立（明治三八）△耶蘇教徒六十名を七條磧に於て火刑に處す（元和五）△盛岡藩の奇傑相馬大作主家の爲に津輕侯に怨を含み矢立嶺の地雷の事破れ江戸に捕へられ小塚原に梟首さる年二十四（文政五）

孟蘭盆會に就て　（四）
磐勝院住職　阿都崇順氏講演

そこで兼ねて御心配をしてゐた父母のため早速天眼通を以て上は天の頂きより下は奈落の底まで見透かされましたら父上は善處に生れて樂みの境界に在しませど母上は哀れ不憫にも炬口鬼の身を受けながら鬼道の中に居られた。

しかも飢渇の苦に責められ骨と皮ばかりになつて見るも怖しい姿でありました此の有様を御覧になられた目連尊者は血の涙を流して悲まれ、一刻も早く食物を捧げて飢渇の苦をお救ひしたいものである、何うして御懸の苦をお救ひしたいものであると思召されて御釋迦様の敎に從つて早速盆器の中へ山の如くに白飯を盛られて大神通力を運ばされて宙を飛んで亡き母の許に參りまして申さるゝには嘸かし母上樣お饑じいで御座りませうから一杯お上り遊ばせと申されました、母上は一通のお喜びでなく直に左の手に碗飯を支へ、右の手に飯を握りまして喰べやうとせられましたが、その刹那其の飯をまだ口に入れない中にその飯が火焔に化して仕舞ひました。尊者は之を見て大いに驚ろかれ且つ泣き叫び當時お釋迦様の在しませし祇園精舍に歸りになつて、三拜九拜せられて釋尊に尋ねられたには如何にしたらこの母上の飢渇の苦を救ふ事が出來ませうかとお問ひになられました。そこで釋尊の仰せらるゝには、此の母は罪根が甚だ深いから汝一人の力でしても迚も救ふ事は出來ぬ又汝の孝順心が假令へ天地鬼をも感動するほどの力があるにしても。なか〳〵夫れ位の力では救ふ事は出來ぬ、それを救ふには十方衆僧威神の力を假りなくてはならぬとて。いとも丁寧にお經を示されて救ひの方法を敎へられました。これが即ち孟蘭盆會の話しであります。

斯う聞いて見ると餓鬼を說いてゐる講者も皆さんもお互ひに兄であつたか、又母であつたかも知れません今日現在だけで云ふならば親しきもあれば疎きもあり或は仇もあれば、味方もあるけれども、遠く過ぎ去つた昔に遡つて考へたら人間同士は云ふ迄もない、犬猫虫螻の畜生までも皆これ血統を引いて居るかも知れずされば罪もなき虫螻一疋でも濫りに殺す事は出來ません。勿論人間同類は恩もなき縁もない赤の他人だからとて不實な待遇をしては濟むものではなく況して恩がある義もある親、主人に對してはあくまでも忠孝を盡すは人として當然の事であります。

講談
赤鞘安兵衛
東京　桃川燕二演
村田月光畫
（三十七）

酒屋の親父首を捻り……「一升一度に酣を付けるあてがないのでね」……「酒屋には似合はん、一升徳利を圍爐裏に突つ込めば酣は出來る、酒は火燗に限る」——「へエ成程」と親父はしきりに安兵衛の様子を見ながら燗を付けます、軈て膳を持出すと安兵衛、大きな茶碗に注いで、ガブ〳〵飲むのではないチビリ〳〵やります、大きなもので少しづゝやる、是れが安兵衛の癖であつたかも知れません、無量の感慨をいだき酒を嗜はしつゝ、あたりの景色眺めてゐると、御城下の方から一人の供を召連れました婦人が來ます。年の頃は二十三四でありませうか、色白にして下ぶくれのした美人、無論御家中の御新造と云ふ出で立ちであります併し安兵衛武庸は婦人などに眼を呉れる樣な人物でありませんから、氣にも止めず酒に舌鼓を打つてゐるが婦人の方では頻りに安兵衛の顔を見て、一旦通り過ぎたが立戻つて參りました、……「中山樣お立歸りでございましたか」……「えッ、ヤアこれは佐々木のお和喜殿でござつたなア」……「マア御無事で結構に存じます是々豐助やお前は一時ばかり何處か歩いてゐないで、また迎ひに上げますよ、私は昔の御懇意な方にお目に懸り、お話しがありますからね」と金を與へて供を何處かへやつた、安兵衛は變な顔をしてお和喜を見て居ります。此の婦人は以前安兵衛が當時の道場に居た頃同門の佐々木友一と云ふ極く仲のよい友達の妹でもり、安兵衛がチョイ〳〵遊びに行つた時に、恥かし相な顔を襖の陰に隱したりしとして居た。至つて内氣な女らしい女であつたのでした、夫れ故安兵衛も今日はかど好いお天氣……の挨拶の外、殆んど親しく話しした事はない、其の昔は安兵衛十八歳位、お和喜は十六歳位でありました。夫れが頭を丸髷に結ひ奥様然として參られ、はにかむどころか憶面もない口の利き樣をする、年を取ると女は圖々しくなるものだと思つたからであります、所がお和喜は十六歳の頃から安兵衛を愛して居たのでしたけれども元祿時代の武家堅氣は謂はれざる舊道徳が濃厚なのでして、女が幾ら男を愛して居ても夫れを素振にも現はすことが出來ない兩性の縁談は親の掌握にあつて、子たるものは彼是れ云ふ權利はない。親の命にのらぬ男と話でもすれば、みだらな女として忽ち擯斥に上る、まして愛し合ふといふ事は穴隙を切ると云へて大罪にも準じられたものです、然うした空氣の中にあつた、和喜は安兵衛に戀を投げかけても口へ出す程にならず、思ひを内に包んで過ごす内に安兵衛は溝口家をお暇して立去つてしまつた、所が親が死に兄友一の代になり、矢張り川上典膳のお肝煎りで典膳一味の塚内六兵衛と云ふ人物のところへ世話をされ嫁と云へい又毒舌に掛けられ、菅野同樣の憂き目に遭はされるかも知れぬと、涙を呑み懊惱を拂ふ心で塚内へ嫁入りした、夫れ是れで夫婦仲も睦ましくなかつたが、一年經たぬ内六兵衛は死去外に厄介者のない塚内の家で、お和喜は後家を立て通して今日に及んだ、計らずも昔戀した安兵衛に遭つたので熱く馴れ〳〵しく入り込んだのでありました……「中山樣、貴方にはいろ〳〵と積るお話もあります、幸ひこの家には小さな小座敷が奥に在ります。奥へお通りなさいまし人通りある往來の側では宜しくありません」……「ハア、何う驚いたなア。モット内氣な人柄のよいお和喜殿と思つたのに、能くツケ〳〵物を言はれる」……「其處に譯があるのでございます」

滋養劑の覇王
マルケイ　ヴイタミンに限る
平五　山野藥局

磐炭防損數へ唄

一つとせ　人々互に無駄省け、無駄は身の損國の損
二つとせ　ふだんなれたる仕事にも、よく〳〵見ねば無駄多し
三つとせ　水もり、瓦斯もり、蒸汽もり、熱のもるにも注意せよ
四つとせ　夜でも使はぬ電燈は、無駄のないよに消ませう
五つとせ　いつでも仕事の初めには、くわしく計畫たてませう
六つとせ　無駄の話はやめにせよ、働く人の邪魔になる
七つとせ　七つ道具の器具機械、揃つて淸めていたはれよ
八つとせ　やかましう云はれる無駄省き。實踐躬行大事なり
九つとせ　心一念かたむれば不良の品はないものぞ
十とせ　時は金なり一秒も活かして使へ國のため

映畫欄

鈴木傳明等
脅かさる

松竹の鈴木傳明、横尾泥海男、松井潤子等一行は二十六日廣島に來り同夜十時頃同市東洋座でファンに挨拶し同十一時頃市内藥研堀祭昌園に引揚げた處十數名の暴力團が押かけ六名を出せ殺してやると騒ぎ立て、事務員某が玄關に現はれるや直に庭に引づり倒して袋叩きにし人事不省にして逃走した。東警察署で原因取調中

●平館●　松竹時代劇阪東壽之助主演「血祭」日活文藝映畫坊城監督峰吟子入社第一回作品「見果てぬ夢」日活時代劇鷗外原作佛生寺監督小川隆主演「高瀨舟」二十八日謝恩興行で入場料半額

●有聲座●　マキノ時代劇南光明主演「熊本非常警砲」マキノ時代物津村傳主演「露路裏の鼠族」マキノ現代物大塚恕二主演「笑ひの驟歌」帝キネ松本田三郎主演「愛慾亂麻」二十九日より

開業披露
接待……アイスコーヒー
……ウーロン冷紅茶
美味で評判の　レストラント
同本御光來の程を
平町　昌　ホール第二支店
四倉銀座　電六八

貸切
料金大破格
値下斷行
磐城タクシーへ
電話四五四番
平驛前

吉田眼科病院
平町紺屋町

夏向の
小供洋服生地と
新柄レース一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました
婦人手芸材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

慢性諸病治療開始
弊院實驗所は生理的療法として醫藥無効としての、中風、癌、肺結核、癩病、其他の難病病名病原不名病ですらめき〳〵ご癒快します。
治療料は一回金二十錢
但し他の醫療や賣藥等と異り効能あらはれざる中は無料
一般難病者は躊躇せず來り試みられよ
萬病必治　高速度複式療法
福島縣平實驗所
回春堂療院
（福島縣平町仲町八番地　税務署東側向）

平新川町十九
木村病院
電話一六四
産婦人科　院長　木村寅次郎
女醫　木村コウ
内臓外科　整形外科　醫學士　松永憲一
藥局　東京藥學士　萩原駿二

專門眼科醫師擔任
無料檢眼
無料檢眼券　御利用下さい

12
11
1
10
2
9
TOKIWAYA

信用アリ正確味萬點ノ時計
御客様本位ノ眼鏡部
平　壹　常盤屋時計店　電三三九

入院隨意（自炊の便あり）
X光線　外科專門
平町南町
上田外科醫院
電話一二九
病室完備

生花教授
池ノ坊流　生花を御同好家に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町五丁目十六番地
須藤まつの

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原睦郎
外科、梅毒、淋疾、皮膚病　市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一一四番

牌の跳る快音に 樂しい笑の爆發

三〇年を行く平町に 賑ふ二つの麻雀俱樂部

初秋の夜に紅ネオンサイン

「麻雀」…なんと云ふ現代人の心を唆る強い響きであらう。變化に富んで面白く而も七分の運を加味するマアヂャンは眞に老若男女を問はず一樣に無限の感興をほしいまゝにさせるそれこそウルトラモダンな室內遊戯として何事にも時代に取り殘されぬ平町のこれも一つの体面として既に先頃來二丁目裏に日本。田町賓川醫院うちに平。の兩麻雀俱樂部が設けられ牌の跳る音と崩れる樣な哄笑の爆發に日毎夜毎可なりの賑ひを見せてゐる、平は三日の開業日本は十五日からの蓋あけで何れも日尚ほ未だ淺い關係から今の處この種の設備を知らぬ向もあるらしく結局初心の人達が親切な手ほどきを求めるには今が絶好の時機であるらしい、常連としては根が中央からの輸入物である丈けどうしても鐵道方面に多い樣であるが一般町の人や稀には若い女性の何人かも見へて勝負に一段の興趣を添へてゐる。初秋の夜に如何にも人なつかしい麻雀俱樂部のネオンサイン。三〇年をゆく平町はまた格別な響きではある

磐城梨!!! 愈々出廻る

平市場の相場は 一箱二圓五十錢

赤井村平窪村方部特産の磐城梨が昨今漸く出廻り始めたが現在平町市場の相場は四貫函詰二圓五十錢內外小貫早生長十郎種で貫四十錢から二十錢程度例年に比較して豊作だが相場は約三割安長十郎種大白種などもボツ／＼出廻つて居るが未だ本際はない

磐中河村長谷川組 準決勝で惜敗

仙台で開かれた 選手權大會戰績

東北學院庭球部主催係北日本中等校庭球選手權大會は二十七、八の兩日同學院中學部AB兩コートに於て開催平町からは根本磐中教諭及根本茂武商氏附き添ひ磐中河村、長谷川組出場したが參加組數四十六校百二十八組の多きに上り磐中組はBコートに屬して

第一回戰不戰一勝

第二回戰

双中 鈴木千葉 一―四 磐中 河村長谷川

第三回戰

山形中 吉住松島 〇―四 同

第四回戰

山形商 松村五十嵐 三―四 同

右の如く殆ど無人の境を行く概を示して各組を薙ぎ倒し

第五回戰Bコート決勝

若松商 岩川秋山 二―四 同

の戰績で棹尾、強敵を屠り愈々いきづまる樣な緊張裡に準決勝に入り

前橋中 深町沼田 四―一 同

の顏合せで華戰健鬪火の出る樣な接戰を展せた結果四對二で惜敗[illegible]の優勝を聽し意氣軒昂裡に引き上げた

内郷の胡鼠泥

内郷村大字白水字葎井場無職合田直一(二四)は去る二十四日午後九時頃隣家の雜貨商藤お方奥座敷のタンスから現金十一圓五十錢を窃取費消したこと探知され二十七日綴駐在所員に逮捕された

砲金を盜む

古河の馘首坑夫が 行き掛けの駄賃に

石城郡好間村元古河炭礦坑夫宮城縣刈田郡小谷地村生れ高橋秀夫(三〇)は過般同礦を馘首された折砲金二十貫(價格三十圓)を窃取し平町古物商柳內德藏及御厩山木孝秀に密賣し宮城縣石の卷に潜伏中を廿八日逮捕された

常習賭博判決

平町字南町四九西牧茂八(五二)に係る常習賭博事件の控訴公判は二十八日午前十時より福島地方裁判所で行はれた結果檢事は原審通り懲役四ヶ月を求刑判決言渡しは來る九月一日

磐城炭礦 事務所移轉

明卅日から

磐城炭礦では時節柄事務簡捷節約の一端として從來內郷村宮の丘上にあつた事務所を綴驛前に移轉すべく家屋の新築中であつたが愈々三十日を以て移轉執務を開始すると

緊縮貯金を返して 役員の減俸斷行

磐城セメントが 七千餘圓を捻出

四倉町磐城セメント會社に於ては先きに財界不況のため去る六月中から緊縮貯金として役員全部の積立てを實行し來つたが最近更に深刻な不景氣にたへられやむなく九月より社長以下役員九十四名の減俸を斷行する事に決定し六月以降も緊縮貯金はこの際全部各自に返すことゝなつた、而して減俸率は俸給七十圓迄の役員に對しては五分七十圓以上百圓迄一割百圓以上一割か分の割合で之れにより月約六百圓年額七千圓以上が浮び上る計算であると

販賣所を騙る

内郷村宮字宮ノ澤磐城炭礦坑夫藤本太郎(三四)は二十六日同社健康保險組合平富の配給書を偽造し二女ミツエをして同礦販賣所から砂糖、醬油價格四圓七十錢を詐取した事平署に探知され二十八日檢擧された

ごめん橋腐朽

四倉町字仲町と新町の境界に架せられてあるごめん橋附近は町內有數の名所柄なるに拘はらず最近來ごめん橋の欄干が腐朽し今にも倒壞せんばかりであるので急速これが修繕を必要とする輿論が高まりつゝある

通俗講話 女の神秘 （上）

TK生

◇女には更年期（又は閉經期）といふものがある。卽ち女[illegible]輸卵腺の機能の終りを告げる時期で、月經初潮の年齢によつて多少の遲速はあるが、普通四十五歲から五十歲までの間である。最も著明な徵候は月經の閉止で、これを中心として種々雜多の徵候が現れる。

◇つまりこの時期に入つた女は製兒機械としての女の職務から免せられ、失業者の群に投じたもので、か性としての存在としての存在は殆ど無意義となり、精神的にも、肉體的にも少からぬ苦痛をなめなければならぬのである。

◇肉體的苦痛としては卵衝感、肥滿、心悸症、動脈血壓の上昇、多汗症、頭痛、耳嗚り等があり、又甲狀腺の機能變化のために全身の溫調節と共に手足の溫熱感に變化が起り、寒中火氣を嫌ひ、溫暖時に却つて手足が冷たかりする。寒い時、汽車、電車の窓を開け放つて隣席の人に迷惑を及ぼすのは大抵更年期の婦人である。精神的苦痛としては嫉妬心の增進焦躁症、情緒不安定等が主である。

◇更年期の婦人は、卵巢濾胞の消失や腦下垂體前葉の內分泌などの有無を超越し、感情においても、性交慾においても、また快美感にたいしても、殆ど何等の變化を來さない。この點は男子とは幾分趣を異にしてゐるところに女の神秘があり、女の女たるところが遺憾なく發揮されてゐる。

形影喪落の失業者 パンを得るに狂奔

今は退職手當の影も冷く 藤原時代を偲び泣く

磐崎村三井炭礦が廢山して流れ出た失業群の中故郷に歸つたもの他地方に仕事を尋ねて去つたもの等を除いし約五百家族約千二、三百人の失業者とその家族は多部附近の湯本町に流れ込んだので湯本町の空家と云ふ空家は勿論貸間、貸部屋は殘す處なく是れら三井の失業群が爭つて借受けたが全部を收容し切れないので中には物置や納屋まで改修し臨時の貸長屋を作る者も現れた樣であるが就職難時代の事とて仕事の見付かる當もなく僅かの退職手當を唯一の賴みとして殆んど全部が毎日寢食ひ同樣の生活を續けて居るが、これとて何時まで續く筈もなく手當金全部を消費ひ果した後この千餘の大失業群がどんな生活に入るか心ある人々から頗る注目されて居るが中には早くも手當金全部を費ひ盡して乞食同樣の生活をして居る悲惨な失業者もありそれかあらぬか昨今同町を中心とする附近町村に毎夜の樣にコソ泥が大流行!…その犯罪が申し合せた樣に米とか味噌等の日用食物が大半を占めて居り平署當局でも此の取締りに手を燒いて居るが一方附近各炭礦の貯炭場から毎朝午前二時から五時頃までにかけて石炭泥棒が大流行で會社の者が見て居ようが居まいが構ひなしで殆んど公然に盜み去る者が續出し此の方面の被害も莫大なもので盜み出した石炭全部が平町やその他郡內各町村に捨値同樣一俵三十五錢內外で賣飛ばされて居るので毎月百噸內外を地元に販いて居た入山、磐城等では今や地元賣が一つもなくなり賣炭商人も此の安値には對抗出來ないので得意先が次第に減ずると云ふ騷ぎで三井炭礦廢山の影響が石城郡下にどんな大きな反響を齎したか現在の生活難時代がどんなに深刻なものであるかを裏書きして居る。

大野の阿彌陀

大野村大字戸田阿彌陀如來の祭典は來月八、九兩日（舊七月十六日）であるが地方で[illegible]賑ひを[illegible]されて居る

平窪梨品評會

七日午前八時から平郡農會樓上で平窪梨品評會を開催する

新しい盆踊りに 珍趣好を凝らす

其夜の享樂を當て込む 若い男女の嬉しい悩み

石城の盆踊は關東から以北で知らぬ者も無い程賑しいもので新盆には他所からの見物人近郷からの老若男女で石城の中心地である平町は毎年文字通りの芋の子を洗ふ樣な雜踏を呈するが中には何でも緊縮の折柄とは言へ定命で死ぬ事だけは緊縮が出來ず去年の新盆は三十軒だつたが今年はずつと多く五十以上の新盆があるだらうと思はれて十五、六兩日の賑を豫想されて居るが「盆の三日を踊らぬものは」で踊り子も非常に多いらしく尙ほ踊りも新しいものでは新たける踊、大漁踊、おはら踊、新笠踊等でその他安來節踊。スットヽン節踊、佐渡おけさ踊、白河をどり、さんさをどり、外數種などがありをどり子も段々モダンになつて新しい工夫を添へるに注意を拂つて居るので奇拔なおどりが生れるだらうと言はれて居るが平署でもをどりに就てはあまり風紀を害せざる限り大目に見ると言つて居るから深刻な不景氣でも盆の三日だけは例年に無く賑ひだらうと

工場主打合

勞働統計に付

廿九日午前八時から平郡役所樓上で石城郡勞働統計調査打合會を開催縣より勞働統計課長吉田吉郎工[illegible]木高平郡出席郡下各工場主の調査打合をなし午後二時散會した

木炭檢査協議

明卅

好間の不審男は 大金を盜んだ賊

栃木生れの五犯男 平署で嚴重取調べ中

廿八日午後一時頃石城郡好間村を擧動不審の男が徘徊して居るので平署に引致嚴重取調の結果遂に包み切れず右は栃木縣那須郡向田村神長午當時住所不定前科五犯思田矢四郎(五八)で去る十九日午後十時頃小川村下小川根本吉松宅から現金四百圓を窃取した外福島、東京、栃木、茨城の四縣を股にかけた窃取常習犯である事を自白した

拈華微笑

岩那礦部の昔から流れるものは泥ばかりと思つてゐた町民に珠玉の上水道は夢の樣な現實だ

□

時代を追ひかけるに麻雀の智識平町民に新しい苦勞が出來た

□

磐中の河村長谷川また庭球の檜舞臺で準決勝迄行く、磐の阿部興津、呼應して正に萬丈の氣を吐くもの

□

セメントで節約貯金を返した現金はストックして置けまい

□

盆提灯の御辭退は時代の勢だ。賣る人造る人新聞紙を恨まぬこと

□

職を求むる敗殘の群に秋雨蕭條矣。寂しい圖だ

資格者がダブつき 受驗者數減少す

平町外四ヶ所で執行の 小學教員の檢定

本縣では毎年春秋の二回小學校教員及び幼稚園保姆資格檢定試驗を行ふ、今年も來る九月十六日から五日間福島、郡山、平、若松、田島の五ヶ所で執行されるが受驗願者數は教員九百八十五であるが各受驗資格別に見ると

▲高正男一九一、女七〇▲尋正男一五六、女二八四八▲尋准男二三六、專科正教員七五、体九音三二、手六、商一六、英一、國一九、家六、裁一三五

の內譯だ統計に依ると教員檢定の志願者は逐年減少の傾向を辿つてゐる今年四月に比べて百七十三人を減じ昨年九月に比しては八十一人四月と對比して二百十八人一昨昭和三年九月とくらべても百七十二人、四月では百四十二人どの年と比較しても減少してゐる。不景氣のため學校卒業の求職者が增えてるのだから就業志願も增加してよい譯だが反對に減少し、理由を探究すれば一兩年來本縣では教員の生産過剩を來せし教員のはけ口は全く行き詰つて資格よつて遊民が多く所謂資格の持ち腐れの感を呈してゐるため今年あたりは減少したのではあるまいかと言はれてゐる

六八町に赤痢

平町六八町十一雜貨商鈴木ヤスイ(四二)は廿八日赤痢と判明

明日の吉凶

新曆八月三十一日

舊曆七月八日

▲一白の人 突飛な事に手を出さず案外の成績を見る▲二黑の人 計畫粗漏なくば次第〳〵に發展し行くべし▲三碧の人 物事縺れを生じ易し飲食物にも注意を要す▲四綠の人 外に對する威勢あるも內に淋しきものあり▲五黃の人 圓滿平和を目標とすれば願望身に染まる▲六白の人 物事調子に變動を生じ意の如く成らぬ日▲七赤の人 多少外界の支障はありとも進路に差支なし▲八白の人 小なることに心を痛めず大局に着眼すべし▲九紫の人 事は努力次第にて成るの時障害に撓む勿れ

平町田町

高久病院

電話五一三番

平町人事

△出生

平町田町二六郡山市堤下町四四渡屋業中子富治三男秀進

平町鷹匠町六安達郡二本松町竹ノ町二ノ二石崎古渡長之助二女チヨ子

▲死亡

平町台町八四白河郡平村和久瀨房一之佐小熊五郎(六二)

亡妻新盆の處時節柄提灯其他の供物一切乍失禮御辭退申上候

平町田町

市原卯太郎

亡兒昌新盆に相當り候處甚だ勝手乍ら一切の御贈與御辭退申上度何卒御了承願上候

平町三丁目

山田勇太郎

法授院新盆に相當り候へ共時節柄提灯其の他の御贈與等甚だ勝手ながら御辭退申上候間惡しからず御承引被下度願上候

平町古鍛冶

水野虎三郎

亡妻新盆之處時節柄提灯其他御贈與乍勝手御辭退申上候

平町揚繩小路

天野忠彌

天瑞院新盆に相當り候へ共提灯其の他御贈與乍勝手御辭退申上度候間惡しからず御承引被下度願上候

平町

松月堂

金子重次

ヒゲタ醬油
銚子醬油株式會社

特約店

平町田町

廣瀬支店

電話五四番